

○深谷秀峰議長 次， 8 番平山晶邦議員の発言を許します。平山晶邦議員。

〔8 番 平山晶邦議員 登壇〕

○8 番（平山晶邦議員） 平山晶邦です。議長のお許しをいただきましたので一般質問を行います。

第1の質問として、本市の教育環境の整備について質問いたします。

私がこの質問を行うきっかけは、市内の小学校に子どもを通わせている若いお母さんから、学校のトイレのにおいがあり、学習環境まで悪くなっている状況を議員さんにご存じですかという問いかけでありました。私は、地元の学校へは入学式や卒業式、また運動会にご招待を受けるので行くことはあっても、それは限られた学校の状況しか知りませんでした。その若いお母さんのご意見をきっかけとして、私は改めて市内の学校の教育環境状況や水戸市、常陸大宮市、つくば市、東海村など、幾つかの新築した学校や改修した学校を見させていただき、保護者や先生などの意見や教育委員会の説明をいただきました。

本市の学校教育環境と県内の他市町村の学校教育環境を調査しますと、さまざまなことが理解できました。常陸太田市の学校教育環境は、新築した学校においても先進的な試みは行われておらず、決して褒められた状況ではないのではないかと考えることができました。

この議場におられる皆さん方にご存じだと思いますが、県の教育委員会の資料に、市町村別年少人口割合がありますが、直近の資料では、県内44市町村の中で年少人口は下から4番目で、市の人口——これは4月1日現在であります、5万2,436人のうち年少人口5,189人で、年少人口が占める割合は9.9%、10%を割っています。このような状況の中、私は地域の集まりなどで「子どもは地域のダイヤモンドです」という話をして、だから子どもたちの安心する生活環境を作っていかなければならないというような話をさせていただいております。

また、常陸太田市は「住むんだったら常陸太田市」のキャッチフレーズのもと、子育て支援にさまざまな事業を行っています。住んで子育てをするときに、子どもがいる若いご夫婦の一番関心が高いのは子どもの学習環境、すなわち学校の教育環境ではないでしょうか。トイレのにおいが学習環境まで悪くしているなどの指摘を若いお母さん方から受けてはいけません。子育て支援に力を入れて「住むんだったら常陸太田市」のキャッチフレーズが泣いてしまいます。それは本市だけ見ては理解できません。県内の他市町村はどういう学校教育環境なのかを見なければいけないと思います。

そのことを前段に申し上げ、第1の質問の1として、新築学校についてお伺いをいたします。

1つ目として、常陸太田市でこの10年の中で新築された学校は、里美中学校、峰山中学校、里美小学校、そして現在建設が進んでいる金砂郷中学校があります。これらの学校を建設するときは、執行部の内部でどのような議論、検討が行われ、そして設計コンサルタントをどのような方法で決定し、本市が考える意見や方針をどのような形でコンサルに伝え建設に至るのか伺います。直近の金砂郷中学校を例にしてご説明願いたいと思います。

2つ目として、新築している学校は、これからの未来ある子どもたちを教育する現場であります。還暦を迎えた私などとは全く違った生活環境の中で子どもたちは育っています。そしてその

子どもたちが一日の生活の中で一番多くの時間を過ごす場所が学校であります。それらを踏まえて、新築した学校は現在の子どもたちの生活環境に考慮した未来につながる学校の学習環境となっているのか、また、地域のさまざまな場面で活動できる学校となっているのかお伺いをいたします。

3つ目として、現在の気候などを検討した学校教育環境となっているのかをお伺いいたします。私はここに「New s w e e k」という雑誌を持ってまいりました。ここで地球温暖化を特集していました。この雑誌に書いてあるのは、世界的な認識は今、二酸化炭素の排出をゼロにしても今後50年間地球温暖化はとまらないそうであります。ゼロにすることは不可能でありますから温暖化は大変な状況が生まれ、気候変動は生きている私たちが考える以上のことが起こってくるだろうと書いてあります。そこで今の子どもたちは「酷暑の世代」と言うそうであります。人生の大半を人類史上最も暑い気温のもとで過ごす世代になるということだそうであります。学校の学習環境を考える上で、暑さ対策は待ったなしの対策となってきたと思います。

3月議会で同僚議員からエアコン設置の質問がありました。教育長は、平成27年度学校施設検討協議会において検討を進める答弁をしておりますが、学校の統廃合等については多くの議論を重ねることが必要であります。学校の学習環境の整備については、幾らでも教育委員会の方針や考えで進めることができるのではないのでしょうか。異常気象という暑さ対策が教育の現場で問題になって久しいですが、本市の教育委員会の皆さんの知恵は新築した学校の現場でどのように生かされているのでしょうか。お伺いをいたします。

環境整備についての2の質問は、既存の学校の教育環境についてお伺いをいたします。

1つ目として、本市の中で建設後30年以上経過している学校はどのくらいあるのか伺います。前段でトイレのにおいの話があったのは、建設後40年近くたっている学校の保護者からでありました。40年前と今では生徒たちのライフスタイルは相当変化していると考えます。トイレに例をとれば、40年前は和式トイレでもよかったわけですが、現在では生徒は生まれたときからウォシュレット付の洋式トイレだと思います。既存の学校のトイレなども改修していく必要があると考えます。40年前と今とでは温暖化についての考えも違ってきます。ですから保護者の皆さんから教室の温度の問題などもPTAの懇談会の場に出てきていると思います。そのような中で、30年以上経過している学校数はどのような状況なのかお伺いをいたします。

2つ目として、本市が力を入れている子育て支援策にのっとり、既存の学校が子育てをする保護者から満足ある学校となっているのか、教育委員会としてのご所見をお伺いいたします。

3つ目として、今までに教育委員会は、学校の学習環境のアンケートなどを生徒や保護者の皆様からとったことがあるのかについてお伺いをいたします。学校の学習環境を考える上で一番大切なことは、生徒の立場だと思います。先生方は与えられた環境の中で一生懸命生徒たちへの指導に当たっています。学校行事に参加した折にも、先生たちの一生懸命さは私も含め地域の皆さんに伝わっています。先生方は与えられた学校環境の中でよりよい教育を目指しているわけですから、市は生徒や保護者の皆さんが安心できる学校環境を作っていくことに努めなければいけないと考えます。そのためには生徒や保護者の意見が大切なわけです。PTA役員や保護者、そし

て生徒などから学校の教育環境アンケートなどをとったことがあるのかについてお伺いをいたします。

4つ目として、学校の環境改善を進めるに当たっては、幾ら言葉で前向きな答弁をいただいても財政的な見通しや考えをいただかないと市民の皆さんは理解が進まないと思います。3月議会で本年度予算を議決したばかりではありますが、教育環境についての本市の来年度に向けての財政的な考え方についてご所見をお伺いしたいのであります。

教育環境の整備については以上です。

第2の質問は、公共施設等総合管理計画策定についてお伺いをいたします。

昨年常陸太田市は、公共施設白書——きょうも持ってまいりましたけれども、このような冊子を作りまして策定したわけでありまして。私たちが40年間で1,087億円の公共施設更新費用がかかり、将来1年間に28億円弱が必要になり、維持更新できる公共施設は現在の55%程度になるとの説明を受け理解しているところでありまして。それを受けて公共施設等総合管理計画を策定し、具体的減らす組織名を盛り込む実行計画になっていくと思います。

急速な人口減少や公共施設の老朽化を考えると、現在使っている本市の公共施設の2つに1つは整理しなければいけないという現実を市民の皆様には知らせてご協力をいただかなければなりません。市民の皆様にとって痛みを伴う計画になると思います。それゆえ明確な論拠と精査した管理計画と実行計画が必要になってくるわけです。今後の計画策定への進め方も含め、進捗状況についてお伺いをいたします。

以上で1回目の質問といたします。

○深谷秀峰議長 答弁を求めます。教育長。

〔中原一博教育長 登壇〕

○中原一博教育長 教育環境の整備についての新築学校についてのご質問にお答えいたします。

まず初めに、近年新築した校舎の執行部内部の検討経過や設計コンサルタント決定の経過についてお答えいたします。

近年建築した校舎は、平成18年に里美中学校、平成22年に峰山中学校、平成26年に里美小学校、本年度完成する金砂郷中学校でございますが、今年の8月に竣工予定の金砂郷中学校を例にいたしますと、設計委託をする前に、まず市役所内に関係する部課長で構成するプロポーザル審査委員会を立ち上げ、教室を初めとする施設の機能や条件を検討し、基本設計プロポーザル業務要領を作成して次のような基本的な考えを構築したところでございます。

その大きな柱といたしましては、1つ目に「生きる力をはぐくむ交流空間づくり」、2つ目に「安心感のある充実した学びの場づくり」、3つ目に「環境と触れ合う場づくり」、4つ目に「地域の拠点としての役割」であり、これらの考え方を生かした学校にしていくことを方向性といたしました。

まず、「生きる力をはぐくむ交流空間づくり」としましては、一斉授業やグループ学習、一人学びなどの多様な学習形態ができる空間や環境について配慮すること、また、共用部分等を明るく開放的な空間の設置にすることや生徒と先生が交流できる空間を設置すること。「安心感のあ

る充実した学びの場づくり」としては、木質等を多用に用いまして、ぬくもりと温かさを感じられることに配慮すること。「環境と触れ合う場づくり」としましては、日照や通風など効果的なコントロールにより、人口エネルギーに頼らない快適な環境を確保すること。「地域の拠点としての役割」としましては、地域の歴史や文化、地域の人たちとの触れ合いの場、また緊急避難場所としての役割と機能を発揮できることなどを基本的な考えといたしたところでございます。

次に、コンサルタントの決定につきましては、指名によるプロポーザル方式によって業者を8者指名し、その中から選定いたしました。選定に当たりましては、基本的な考え方の理解度、実施方針の妥当性、提案の適格性、独創性、実現性や同種工事の実績や有資格技術者の保有状況等によりプロポーザルの評価を行ったところでございます。

選定理由につきましては、配置バランスがすぐれていること、校舎内中央に吹き抜けを配置したコミュニティスペースにより、自然の光、風をコントロールできる温かみのある快適な空間を提案したこと、さらにエコ対策や地域防災を含めた観点から提案していることであります。

続きまして、現在の子どもたちの生活環境を考慮した内容となっているかについてお答えいたします。

児童生徒たちが生活の中で一番多くの時間を過ごすのは学校でありますので、快適な環境づくりが必要であると考えております。今年完成する金砂郷中学校では、主要教室を南側に配置し、光あふれる空間構成となっております。さらに全ての普通教室を同一階に配置し、統合中学校における生徒間交流にも配慮いたしました。普通教室内には多目的スペースを設け、弾力的、多目的な学習ができるように配慮したところでございます。また中央に廊下、ラウンジを共有したスペースを設けることにより、光、風をコントロールできる自然な温かみのある環境を創出したところでございます。トイレにつきましても暖房便座やウォシュレットを採用するとともに、公衆的な場所に設置された洋式便器に抵抗がある生徒がいるため和式も取り入れ、子どもたちのニーズに合った環境として作り上げました。

続きまして、現在の気候などを検討した学校環境となっているかについてお答えいたします。

先ほど申し上げましたように、金砂郷中学校では中央に吹き抜けを配置するなどして、光と風をコントロールできる快適な空間を考慮して建設を行っており、快適な環境の提供が期待できるものと考えております。

次に、既存の学校の教育環境についてのご質問ですが、既存の学校で建設後30年を経過している学校数についてお答えいたします。

本市には現在、小学校13校、中学校7校の20校ございますが、小学校8校、中学校4校の計12校が30年を越えております。昨年度まで地震時の児童生徒の生命を守るため、耐震工事を優先して校舎等の改修を行っており、金砂郷中学校の現在使用している校舎と屋内運動場を除き市内の全ての学校で耐震化について完了しております。また、年数を経過している学校については施設本体の老朽化があり、外壁のひび割れ、内装、床や屋根の防水等の劣化、水道などの漏水、さらにはトイレのにおいも発生しているところがあり、今後は校舎全体の大規模改修や老朽化したトイレを順次計画的に行い、学校施設環境の改善に努めてまいります。

トイレの改修につきましては、洋式化を中心に暖房便座やウォシュレット付便座についても採用していく方向で考えております。また、和式便座の設置につきましても、まだまだ公共施設に設置してあることや不特定多数の人が使用した便座を使用することに抵抗のある生徒もいることから検討する必要があるかとございます。

次に、年数が経過している学校は子育て支援を最大の命題としている本市にふさわしい学校環境になっているかについてのご質問にお答えいたします。

老朽化により学校施設環境が十分ではない状況もございますので、積極的に施設改修に取り組んでまいりたいと考えております。特にトイレの環境改善につきましては必要性を認識しておりまして、最優先的に取り組んでいきたいと考えております。平成28年度には、学校施設環境改善交付金事業の活用によりトイレ改修工事を実施し、トイレ未改修の全ての学校について3カ年程度で完了させる計画としております。

暑さ対策につきましては、現在幼稚園遊戯室へのエアコン整備を段階的に行っており、里美幼稚園を残して本年度完了する予定でございます。しかしながら小中学校のエアコン等を含めた空調設備につきましては、学習面、健康面、財政コスト等への影響を勘案しながら慎重に検討していくことが必要でありますので、扇風機等の整備も含め、今後積極的に検討していく方向で考えております。また、校舎の外壁や内部の床の大規模改修も順次行っていく計画でおります。

次に、PTA役員などからの要望や生徒や保護者からの学習環境のアンケートなどはとっているのかについてお答えいたします。

学習環境の要望につきましては、まず学校長を初め教職員の意見を聴取し、できるものから対応しております。統合の場合は統合前のアンケートを保護者等に実施しておりますが、ご指摘のようなアンケートは現在のところを実施しておりません。

しかしながら、毎年PTA連絡協議会と市長・教育長との懇談会を実施しており、平成26年度には学校の設備の充実についても意見交換を行っております。この意見交換の中で洋式トイレの設置要望がございました。平成21年度に各階男女別に最低1基ずつ設置した経過や最優先で実施している耐震工事が完了次第、老朽化の進んでいる校舎の大規模改造工事を実施し、トイレについても全面的に改修していく予定である旨の回答をしたところでございます。

次に、学校環境改善の財政的な見通しはどのように考えているのかについてお答えいたします。

平成28年度から予定しているトイレ及び校舎の大規模改修などの環境整備事業につきましては、文部科学省の学校施設環境改善交付金の活用を想定しております。来年度事業に向けて国や県に強く要望していくとともに、関係部課等と連携して早期に実現できるよう努めてまいりたいと考えております。

○深谷秀峰議長 政策企画部長。

○加瀬智明政策企画部長 公共施設等総合管理計画策定の進捗状況についてのご質問にお答えいたします。

当市では、平成25年度に学校や公民館等建物系の施設を対象といたしました公共施設白書を作成しており、その中で議員ご発言にもありましたように、市内全ての建物系公共施設の更新費

用を今後40年間で総額約1,087億円、将来的に維持更新できる施設を現在の55%程度と試算しております。また、その試算結果等から公共施設保有総量の削減や施設の多機能化・複合化の推進など今後の公共施設の方向性について示しております。

公共施設等管理計画は、建物系公共施設に加えて道路・上下水道等のインフラ資産を含めた市が保有する全ての公共施設を対象とする10年以上の長期計画であり、昨年4月に国から示されました策定に当たっての指針に基づき、平成28年度までに市内の公共施設を取り巻く現状や計画策定の際に実施する将来見通しの分析結果等を踏まえまして、公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な市の方針を定めることを目的に策定するものであります。

また、国の指針において地方公会計の観点からの固定資産台帳との関係が示されており、基本的な市の方針の内容や公共施設の維持管理、修繕、更新等に係る事業費等を充実、数値化し、計画により実効性の高いものにするためには、固定資産台帳を利用して策定することが望ましいとされております。

これらのことを踏まえまして、今年度につきましては、昨年4月に国から示されました固定資産台帳の整備や複式簿記の導入を前提といたしました財務諸表の作成に関する統一的な基準並びに本年1月に取りまとめられました統一的な基準による地方公会計のマニュアルに基づきまして、土地・建物等の公有資産や道路等のインフラ資産及び物品等市が保有する全ての固定資産のデータを網羅的に記載いたしました固定資産台帳を整備する予定といたしております。

なお、この固定資産台帳には、通常記載いたします勘定科目、取得年月日、耐用年数等の50項目に加えまして、稼働率やランニングコストなど公共施設等総合管理計画の策定等に活用するための11項目を記載することといたしております。

このような状況から、公共施設等管理計画の策定に当たりましては、公共施設白書で把握いたしました今後の公共施設の方向性等を基本にいたしまして、今年度中に整備された固定資産台帳を活用し、また第6次総合計画や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との整合性も図りながら公共施設の統廃合や再配置、財政負担の軽減、標準化など効果的・効率的な管理運営を行うために、市内全ての公共施設を対象といたしまして平成28年度までに策定してまいりたいと考えております。

なお、管理計画策定後の公共施設の管理運営につきましては、市民のご理解、ご協力が必要となってまいりますので、十分に市民のご理解を図れるよう周知等について研究、検討してまいります。

○深谷秀峰議長 平山議員。

[8番 平山晶邦議員 質問者席へ]

○8番(平山晶邦議員) 2回目の質問をいたします。

教育環境の整備についての1の新築学校についてであります。新築した学校の執行部内部の検討経過と設計コンサル決定の経過についてお伺いをいたします。

先ほどご答弁にありましたように、市役所内部の関係する部門でプロポーザルの審査委員会を構成したということですが、この市役所内部の部門とはどのような部課長で構成するの

かお尋ねいたします。

○深谷秀峰議長 教育長。

〔中原一博教育長 登壇〕

○中原一博教育長 構成の部課長でございますが、副市長を委員長とし、教育長・教育次長・教育総務課長・教育委員会指導室長、それと建設部及び総務部の関係職員で構成した9名からなる委員会でございます。

○深谷秀峰議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） わかりました。ありがとうございました。

それでは、そのプロポーザル審査委員会の皆さんは、プロポーザルのコンサルの決定前とか、そういうときに市内の学校はもちろん見ているんでしょうけれども、副市長を初めとして知識を深めるというような他の市町村の研修視察はしたのでしょうか。

○深谷秀峰議長 教育長。

○中原一博教育長 プロポーザル審査委員会においては視察を行っておりませんが、実施設計の段階で細部の検討が必要でありますことから、直近で新築を行った常陸大宮市の山方中学校を視察いたしました。

○深谷秀峰議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） 次に、学校は第一義は生徒たちであります。ご答弁にもあったように、地域の拠点としての役割や緊急避難所としての機能を発揮することもあると思います。その中で防災対策課などからの意見を聴取した、例えば隣にいる消防長さんから意見を聞いたとか、そのような検討は十分行った学校になっているのでしょうか。

○深谷秀峰議長 教育長。

○中原一博教育長 避難場所としての位置づけとしまして、炊き出しなどを行う防災広場を新校舎と新屋内運動場の間に位置づけたり、災害時に電気が使用できるよう40キロワットの太陽光発電設備を設置することといたしました。また災害時においても体が不自由な方やご高齢の方、それから子ども連れなどの多様な人が使用できる多目的トイレも1階に配置したところでございます。しかしながら、さらに緊急避難場所として災害に対応できる施設の機能を充実する必要があることから、今後研究課題として検討してまいりたいと考えております。

○深谷秀峰議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） 金砂郷中学校の設計コンサルタントは何という設計会社でございますか。

○深谷秀峰議長 教育長。

○中原一博教育長 設計コンサルタント会社でございますが、横須賀満夫建築設計事務所でございます。

○深谷秀峰議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） 横須賀設計事務所というのは峰山中学校と同じ設計会社だと思うんですけども、そうしますと峰山中学校をつくったときから時間が経過しておりますが、横須賀設

計事務所がプロポーザルの提案の決定のとき、峰山中学校よりこのようなところを改善したという新たな提案がその設計会社からあったんですか。

○深谷秀峰議長 教育長。

○中原一博教育長 峰山中学校建設から時間がたっておりましてけれども、金砂郷中学校におきましては校舎内中央に階段を取りつけまして、吹き抜けにすることによって自然の風、あるいは光をコントロールできる温かみのある快適空間を提案しているところが新たな提案でございます。

○深谷秀峰議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） わかりました。

コンサルを決める中で、私は執行部内部の検討経過と設計コンサルタンの決定経過についてはちょっと要望しておきます。他の市町村の決定プロセスと比較して細かいことは言いませんけれども、本市の学校施設設計のプロポーザル——企画提案型の方式は、私は若干の修正をする必要があるのではないかなと思っております。今後の設計事業については、多くの企画提案、コンサルが集まるそういうプロポーザル方式としていただくよう要望をしておきます。

次に、2の現在の子どもたちの生活環境を考慮した内容については、これからの子どもたちの教育環境というものは、タブレット教育だとか電子黒板などを使用したデジタル教育というのか、そのような形に変わっていくと思います。そのようなことを検討した学校施設となっているのか伺います。

○深谷秀峰議長 教育長。

○中原一博教育長 金砂郷中学校では、パソコンを端末とした校内情報ネットワーク、いわゆる校内LANを設置いたしますが、新たな試みとしましては無線LANも構築いたします。アクセスポイントは職員室に2カ所、1階廊下に3カ所、それから2階廊下に4カ所設置することになっております。現在はパソコンやプロジェクターを中心に活用しておりますが、将来的にタブレットや電子黒板等も検討する必要があると考えております。

○深谷秀峰議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） やはり子どもたちが学んでいて楽しいと言われるような学習環境が必要だと思いますので、重ねてよろしく願いいたします。

次に、先ほども言ったように、現在の気候というのはやはりこれからもずっと温かいと、暑くなるという状況だそうではありますが、その中で特にPTAの皆さんから要望が多いのは、やはり暑い中で子どもたちを教育したくないということだと思います。私などもそういうふうな話を多く聞きます。そのような中で、先ほど今回の金砂郷中学校は中央から吹き抜けて自然に風が循環してコントロールができるというお話を聞いたんですけれども、その中で扇風機の設置やエアコンは考えなかったのかどうか、その状況を聞きたいと思います。

○深谷秀峰議長 教育長。

○中原一博教育長 金砂郷中学校では図書館、それから音楽室、コンピューター室、職員室、保健室、さらには会議室、PTAの会議室、それから放送室にはエアコンを設置することとしておりますが、普通教室につきましては設置の予定はございません。先ほど申し上げましたけれども、

光と風のコントロールによる快適性について期待ができると考えておりました、今後これを精査、検証しまして、扇風機あるいはエアコン等についても設置については検討していく必要があると考えています。

○深谷秀峰議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） 新築学校について私もいろいろと勉強をしたので、ちょっと意見を言わせていただきたいと思いますと思うんですが、今新築しているわけです。これからいろいろな子どもたちが使うそういう学習、学校施設になるわけです。そうしますと、今最高の状況の施設をつくったとしても10年後20年後、今は生活のスピードが早いですから、その施設が後れた施設になるかもしれません。最高の施設を考えたとしても、市ですから予算という壁があるのも私は十分理解をしております。

前段で申しましたように、他の市町村の新築校舎を見てまいりましたけれども、そこには哲学があるような気がしています。つくば市はつくば市らしさ、東海村は東海村らしさの中で一生懸命頑張った施設になっているように私には思えたんです。私が調べたところでは、建設予算は平米当たりの単価で比較しましても、東海だから水戸だからつくばだから建設単価が高い学校になっているということはありません。金砂郷中学校の単価とそう変わりはありません。今後、新築学校建設について教育委員会として考えるところをございましたら、そのご所見をお伺いしたいんですが。

○深谷秀峰議長 教育長。

○中原一博教育長 今後の学校の新築に当たりましては、これまでも増して調査、研究を行って常陸太田に合った、そして学ぶ児童生徒にとって、教える教職員にとって、そして保護者を初め地域の方々にとってよりよいと言われる施設設計に努めてまいりたいと考えております。

○深谷秀峰議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） ありがとうございます。今後に期待をしております。

次に、2の既存の学校教育環境についてお伺いをいたします。

1つは、30年を経過している学校数について12校あることは理解をいたしました。今後、学校施設検討協議会などで根本的な検討があるのしょうから私はそれを見守っていきたく思っております。

次に、2番の子育て支援を最大の命題にしている本市にふさわしい学校環境になっているのかについては、これは平成28年度より学校施設環境改善事業交付金を活用した改修を3カ年で完了させる計画であるというご答弁をいただきました。本当にありがとうございます。ぜひ積極的な環境改善に当たられることを改めてお願いいたします。

3の生徒や保護者からの学習環境のアンケートについてお伺いをいたします。私はPTA連絡協議会と11月ごろ市の執行部の皆さんが懇談会を開いていることは理解をしております。しかしその中で要望されたことが次年度の予算に反映されたということは、なかなかPTAの皆さんからは聞こえてきておりません。そして生徒たちからも意見を聞くことが私は必要ではないかと考えますが、この点についてお伺いをいたします。

○深谷秀峰議長 教育長。

○中原一博教育長 懇談会の要望が次年度の予算に結びついたものとしたしましては、今年度であります。平成27年度予算では、地域子ども安全ボランティアによる見守り体制の強化のための拡充でございます。約110万円が予算化されております。また、市役所内担当部門と連携を図り、通学路の変更による危険箇所には防犯灯の設置などを行っております。アンケートにつきましては学校施設検討議会で検討していく中で、必要のある場合について生徒へのアンケートも検討してまいりたいと考えております。

○深谷秀峰議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） ありがとうございます。

4番の財政的な見通しについてお伺いをしたいと思います。教育委員会のほうからは積極的なご答弁がございましたが、財政的な見通しについては教育委員会だけではなかなか事業が進まないということもあります。交付金制度を活用していくわけですが、財政部門、つまり総務部長の管轄になると思いますけれども、財政部門はどのように考えているのかお伺いしたいと思います。

○深谷秀峰議長 総務部長。

○植木宏総務部長 学校校舎等教育施設の整備につきましては、市の総合計画の魅力ある学校づくりに位置づけされるものでございます。これに基づきまして、既に平成28年度からの実施計画において学校の大規模改修整備が計画をされておりますので、財政部門といたしましても有効な特定財源の確保を検討いたしながら予算措置を行ってまいりたいと考えているところでございます。

○深谷秀峰議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） ありがとうございます。

私は今回の教育環境の整備についてのご答弁をいただいた内容について大変評価いたします。今後どのような形で教育委員会が環境整備を進めていくかという大きな方向性を市民が確認できたご答弁だったと私は思っております。そして市民の皆様にもご理解いただける答弁ではないかなと考えます。本当にありがとうございます。

教育環境の整備については以上でございます。

次に、2問目の公共施設等総合管理計画策定に当たっては、1つだけお伺いをいたします。

ご答弁にもありましたように、総務省から示された統一的な基準による地方公会計マニュアルに基づき固定資産台帳を整備する予定としておりますが、これは大変な作業であると考えます。なかなか全庁的には困難が伴うと思います。本市の各部門が共通認識に立って行わなければいけないと考えますが、現在の職員の意識と各部門の意識はどうか。また、そのことをどのような方法で各部門に浸透させ、職員や部門の公会計に対する意識を高めていくのかについてお伺いをいたします。

○深谷秀峰議長 政策企画部長。

○加瀬智明政策企画部長 新たな地方公会計の再度の質問にお答えをいたします。

内容の認識ということでございますが、現在のところは関係関連部署の職員が認識をしている

ということで、全体の認識までには至っていないというような形で認識をいたしております。そのような中で新たな地方公会計の整備に向けましては、関係部署が連携をいたしまして庁内における研修会等を開催していくというような形を考えております。市職員といたしまして地方公会計への理解を図り、公共施設関連のファシリティマネジメントの考え方とあわせまして統一的な認識が持てるように努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○深谷秀峰議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） ありがとうございます。

公会計を行うということは、今までの行政の中では一大革命的なことだと私は認識しております。それだけ市の各部門、そして市の職員の皆さんの大変さというものを私は理解しております。どうか公会計のマニュアルを導入いたしまして、その後さまざまな場面で利活用されて、先ほど言いました公共施設等総合管理計画を実施に移していただきたいと心から思います。

私は今回、教育環境の整備と公共施設のあり方の2つの質問をいたしました。私はこの2つの質問は関連しているという認識を持って執行部に伺っています。教育環境を考える上では予算もありますから、教育委員会が平成27年度に開設する学校施設検討協議会のあり方は大切だと思っています。公共施設のあり方は今後の中で待ったなしの問題であります。教育委員会と市長部局が連携をとって行っていただきたいと強く思っています。

私の質問の趣旨をご理解いただきまして、よろしく願いをして私の一般質問を終わります。